

再評価結果（平成24年度事業継続箇所）

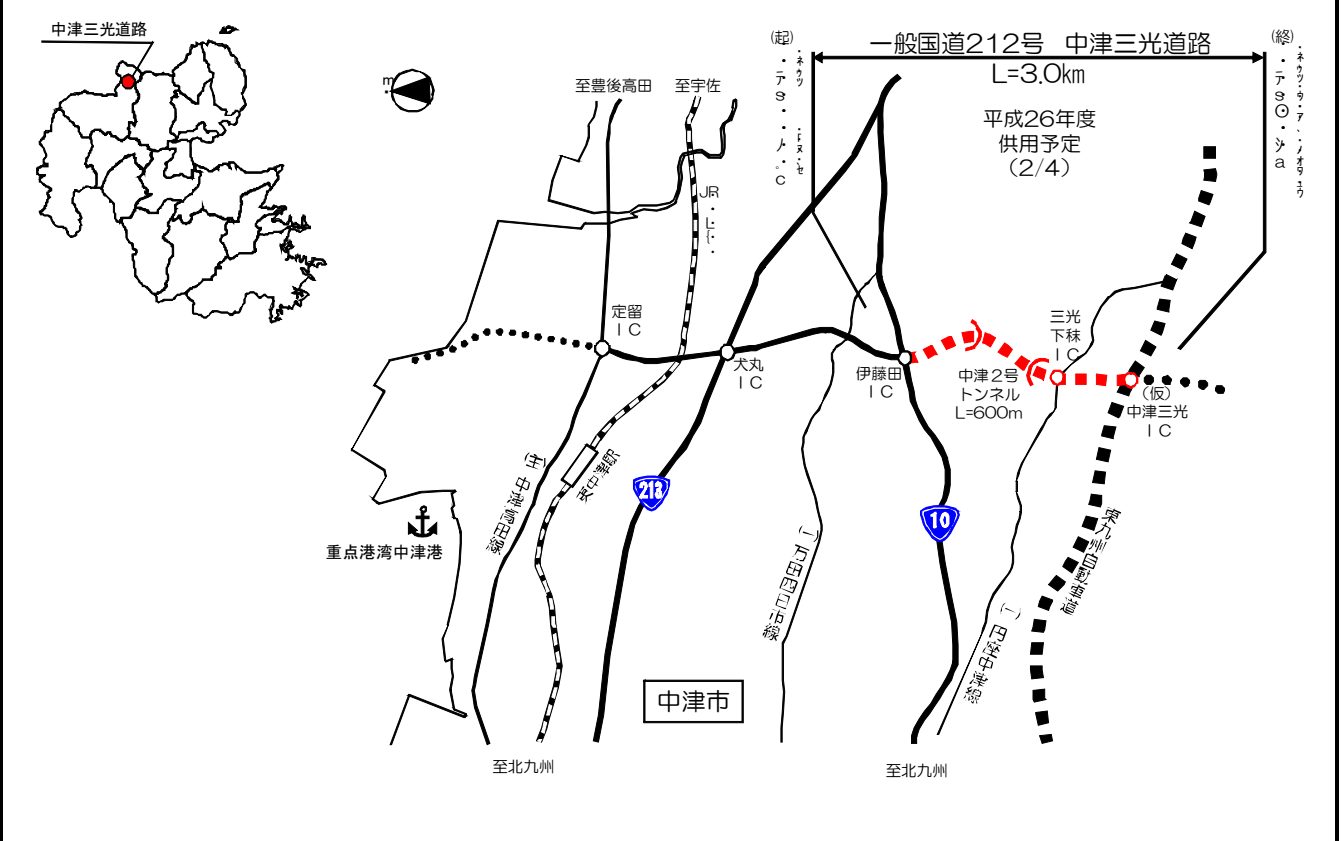
担当課：道路局国道・防災課
担当課長名：三浦 真紀

事業名	地域高規格道路 <small>なかつひた</small> 中津日田道路 一般国道212号 <small>なかつさんこう</small> 中津三光道路	事業区分	一般国道	事業主体	大分県
起終点	自：大分県中津市大字伊東田 至：大分県中津市三光西秣 <small>なかつさんこうにしまくさ</small>			延長	3.0km
事業概要					
国道212号中津三光道路は、地域高規格道路である中津日田道路の一部を担う延長3.0kmの道路であり、東九州自動車道及び重要港湾中津港へのアクセス強化、産業の活性化を目的としたバイパス事業である。					
H18年度事業化		H11年度都市計画決定 (H22年度変更)		H19年度用地着手	
				H19年度工事着手	
全体事業費		約100億円		事業進捗率 31%	
				供用済延長 1km	
計画交通量		11,300～11,600台/日			
費用対効果 分析結果	B/C (事業全体)	総費用 (残事業/事業全体) 49/96億円		総便益 (残事業/事業全体) 260/260億円	
	(残事業)	事業費：46/93億円 維持管理費：3.1/3.1億円		走行時間短縮便益：177/177億円 走行経費減少便益：41/41億円 交通事故減少便益：42/42億円	
基準年		平成23年			
感度分析の結果					
残事業について感度分析を実施 交通量変動：B/C=5.8 (交通量 +10%) B/C=4.7 (交通量 -10%) 事業費変動：B/C=4.8 (事業費 +10%) B/C=5.8 (事業費 -10%) 事業期間変動：B/C=5.2 (事業期間+20%) B/C=5.1 (事業期間-20%)					
事業の効果等					
<ul style="list-style-type: none"> ・重要港湾中津港と東九州自動車道及び大分自動車道を結ぶ循環型ネットワークの形成。 ・中津市（中津港）～日田市間で83分→50分と33分の時間短縮による交流人口の拡大及び物流の促進。（中津日田道路全線供用） ・現道の線形不良箇所による交通事故が多発しており、交通転換による事故数の減少。 ・中津市街地を通過する現道の交通渋滞解消。 ・三光下秣ICのフル化により、三光地区から中津中心市街地へのアクセス向上による救急患者の搬送時間の短縮。 					
関係する地方公共団体等の意見					
中津市、日田市、宇佐市や市議会議長及び商工会議所等で構成する中津日田間地域高規格道路促進期成会（会長：中津市長）による要望活動が行われている。					
事業評価監視委員会の意見					
審議の結果、事業継続。					
事業採択時より再評価実施時までの周辺環境変化等					
<ul style="list-style-type: none"> ・平成20年度末に中津港線・中津道路の3.6kmが供用開始。 ・平成19年度に三光本耶馬溪道路（直轄権限代行）、平成20年度に臨港道路中津港線、耶馬溪道路が事業着手。 					
事業の進捗状況、残事業の内容等					
平成19年度から用地買収を行い、改良工事も順調に進んでいる。事業進捗率は、平成22年度末時点で約31%（事業費ベース）で、用地補償進捗率は約91%（面積ベース）となっている。					
事業の進捗が順調でない理由、今後の事業の見通し等					
用地買収を進めるとともに工事を促進しており、平成23年度から長大トンネル（L=600m）に着手し平成26年度の供用を予定している。					
施設の構造や工法の変更等					
三光下秣ICを、日田方面へのアクセスのみのハーフICから中津市街地方面へのアクセスも可能なフルICに計画変更した。					
対応方針	事業継続				

対応方針決定の理由

以上の事業の効果等の内容、大分県公共事業評価監視委員会における審議の内容を踏まえると、当初からの事業の必要性、重要性は変わらないと考えられる。

事業概要図



※ 総費用、総便益とその内訳は、各年次の価額を割引率を用いて基準年の価値に換算し累計したもの。